

令和4年度 第1回京田辺市生涯学習推進協議会
会議要旨

議 事

(1) 京田辺市文化振興計画中間評価事業について

事務局より報告

(2) 京田辺市野外活動センターに係る運営見直しについて

事務局より報告

(3) 市民まつり社会教育課ブースでの展示結果について

事務局より報告

(4) 生涯学習推進協力員制度の見直しについて

資料の概要について、事務局より説明

(委 員) 協力員がいない自治会もある。協力員への委嘱や研修会等も行われているか。

(事務局) 自治会での協力員等のなり手不足の影響により委嘱ができていない。また、研修会も令和元年度以降開催されていない。

(委 員) 自治会でのなり手不足の解消のため、まちづくり協議会の活用はよいと思うが、協議会がある地区は実施可能だが、協議会がない地区は、それが組織されるまでの間のことも検討する必要がある。

(委 員) 協力員の役割自体を整理する必要がある。あまり重い役割を担ってもらうのは難しいのではないかと。講座や教室を周知するといった役割でもよいのではないかと。

(委 員) 健康村自治会や西八区の公民館では、活発に活動していると聞く。

(委 員) 興戸区では、子育てや見守りをしている団体が自主的に生涯学習に関わる活動もしている。新たに協力員制度を導入する必要はないのでは。人々が自主的に行動を起こすような雰囲気づくり、地域づくりが必要だと思う。

(委 員) 薪区では、公民館がいつも開館しており、裁縫など自分の得意な技能を他の区民に教える仕組みができています。他地区の公民館では、使用する時のみカギを開けて入り、また閉めて帰るという制度となっている。公民館はいつも開放されており、誰でも自由に立ち寄れるようにし、地域の異年齢が交流できる状態の方が望ましい。

(委 員) 自治会活動が盛んな地域では、生涯学習の取組もそれぞれが自主的にやっているが、そうでない地域で協力員となってしまうと、様々な準備を協力員が行わなければならない、その役割が重くなりすぎる。そうすると、なり手が更にいなくなってしまうのではないかと。

(委 員) 自治会でのなり手不足解消のために、まちづくり協議会の活用も必要だが、一部動き出している地域もあるが、多くの地域ではまだ準備段階であり、すぐには設立されない。この状況を踏まえて、協力員制度についてもっと検討していく必要があるのではないかと。

(事務局) 協力員制度については、第3次生涯学習推進基本計画において見直しを行うとなった。しかし、なり手不足ということが問題となっている。今後は、活発な自治会等の状況について調査を行い、いくつか見直し案を作成して、具体的に検討を進めたい。